

Title	グローバルCOE共催シンポジウム「心に関する全日本ネットワークの構築」(8月28日立命館大学); 第2回人間知性研究センターシンポジウム(10月3日 日吉キャンパス)
Sub Title	Symposium by global-COEs "Organizing a Japanese network on kokoro (mind)"; The 2nd symposium of Research Centre for human cognition
Author	田谷, 文彦(Taya, Fumihiko)
Publisher	慶應義塾大学グローバルCOEプログラム論理と感性の先端的教育研究拠点
Publication year	2009
Jtitle	Newsletter Vol.10, (2009. 12) ,p.4- 4
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	シンポジウム報告
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002003-00000010-0040

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

シンポジウム 報告

グローバル COE 共催シンポジウム 「心に関する全日本ネットワークの構築」

Symposium by Global-COEs “Organizing a Japanese Network on Kokoro (mind)”

(8月28日 立命館大学)

2009年8月28日第73回日本心理学会（於立命館大学）においてグローバル COE 共催シンポジウム「心に関する全日本ネットワークの構築」が開催された。「こころ」に関する5大学（お茶の水女子大、玉川大、京都大、北海道大、慶應義塾大）のCOE代表が各拠点での成果を発表し、ネットワーク構築にむけた意見交換がなされた。また学会展示場ではこれらGCOE拠点の出版物等の展示・頒布が行われた。

Symposium entitled “Organizing a Japanese Network on Kokoro (mind)” was held at annual convention of the Japanese psychological association in Kyoto. Each leader from five GCOEs studying mind introduced their activities and discussed about the network.



第2回人間知性研究センターシンポジウム

The 2nd Symposium of Research Centre for Human Cognition

(10月3日 日吉キャンパス)

2009年10月3日、日吉キャンパスにて人間知性研究センターの第2回シンポジウム「脳・身体とヒューマンインタフェースデザインの未来」が開催された。

開催に先立ち、真壁利明・慶應義塾常任理事より挨拶があり、学術の融合が文明を生み出す上での重要性を指摘し、同センターへの期待を述べた。次いで、本拠点リーダーで人間知性研究センター長である渡辺茂・文学部教授より、センター設立の趣旨と今後の予定について説明があった。

基調講演では、川人光男・ATR研究所脳情報研究所所長が「脳の計算理論とBMI」と題して、計算論的神経科学について話をした後、ATR研究所で行っているBMI研究の成果として、EEGとNIRSの同時計測を利用した手法と数理統計的なテクノロジーについて紹介した。

その後、牛場潤一・理工学部専任講師が「BMIが拓くリハビリテーション医療の可能性」と題して、従来中心となってきた機能代償型BMIではなく、機能回復型BMIの実例を紹介した。次いで、藤井直敬・理研BSI適応知性研究チームチームリーダーが「BMI：ヒトを繋げる新技術」と題して、侵襲型の皮質電位に基づくBMI研究について紹介した。

BMIに関する講演が続いた後、さまざまな領域の視点から脳・身体とヒューマンインタフェースの未来に示唆を与える講演が行われた。まず、荻原直道・理工学部専任講師が「神経筋骨格系の構造変化と身体運動の学習・進化」と題して、人類学の視点から、脳の増大に先立つと考えられる二足歩行について、サル形態学的・運動学的な研究を紹介した。ついで、大平貴之・医学部脳神経外科学准教授が「脳深部刺激とパーキンソン病」と題して、パーキンソン病患者の治療に

脳深部刺激（DBS）を用いることで振戦などの運動障害が劇的に改善される事例などを紹介した。さらに、中野康志・経済学部教授は「障害児・者の生活を支えるアシスティブ・テクノロジー」と題して、障害者を支えるテクノロジーのあり方について、単純に身体機能の回復を目指すのではなく、自己決定ができることを支えることで自立を目指すという方向性について紹介した。

最後に、入来篤史・理研BSI象徴概念発達研究チームチームリーダーより、次回のシンポジウムの予定について話があり幕を閉じた。幅広い立場からの講演があったが、いずれも人間と機械のつながり方を考える上で重要な示唆を与えるものだった。（田谷文彦）

The 2nd Symposium of Research Center for Human Cognition was held on Oct 3, 2009. As a keynote speech, Prof. Kawato (ATR Computational Neuroscience Laboratories) talked about their research on BMI and underlying statistical techniques. Furthermore, Dr. Ushiba (Faculty of Science and Technology) introduced an application of BMI on rehabilitation; Dr. Fujii (RIKEN BSI) talked about invasive BMI; Dr. Ogihara (Faculty of Science and Technology) talked about mechanism of bipedal walking; Dr. Ohira (School of Medicine) introduced applications of Deep Brain Stimulation to patients with Parkinson's Disease; Dr. Nakano (Faculty of Economics) discussed an approach to support disabled people's independence.